

**憲法しんぶん 速報版**  
 発行 憲法改悪阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007  
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2018年10月11日 (木)

NO. 900号

本号3頁



## 憲法共同センター「9日宣伝」行動 「安倍さんは怖い。早く辞めてほしい」と署名

憲法共同センターは9日昼、新宿駅西口で毎月行っている「9の日」宣伝行動を行い、安倍改憲の危険性を訴え、9条改憲に反対する3000万人署名への協力を呼びかけました。参加者は12団体33名、1時間の行動で署名が49人分集約されました。

宣伝カーの上から、初めに日本共産党の木村伸子衆院議員が訴えました。木村氏は、民意を無視して米軍新基地建設や改憲などを進めようとする、安倍政権の強引な政治を変えるために「全国で市民と野党が本気で力をあわせていきましょう」と呼びかけました。木村氏は、訴えが終わり宣伝カーから降りた後も宣伝行動が終わるまで、参加者と一緒にチラシを配布し、署名を呼びかけました。



参加団体からは、革新懇、民青同盟、新日本婦人の会、自由法曹団、農民連の代表がマイクを持ち、「安倍首相が臨時国会に自民党の改憲案を提出したいと言っているが、改憲反対の世論をさらに広げてストップさせよう」「沖縄知事選では玉城氏が当選し、辺野古新基地建設を推進し、憲法改悪に突き進む安倍政権に痛打を与えた。その力で改憲をストップさせよう」等と訴えました。

宣伝行動に参加した憲法会議の高橋は、1時間で10筆集めることができました。新宿駅前での宣伝行動で10筆集めたのは初めてでした。署名していただく間にお話をすると、「安倍さんは怖い。早く辞めてほしい」「目標の3000万はすごいね。やり切ってください」等の声がありました。なかには、カナダから帰国中の年配の女性は、「日本は良い国と思われている。カナダの人々には憲法改正の動きなど伝わってこないから。憲法改悪を止めてください」と語りました。

## 国民を愚弄する加計理事長 愛媛県文書読まず会見

### そして、再び「記憶・記録にない」

学校法人加計学園の加計孝太郎理事長が7日、獣医学部新設をめぐる経緯について愛媛県今治市の獣医学部で記者会見しました。愛媛県作成の文書に記された2015年2月25日の加計氏と安倍首相の面会について「覚えていない。記録もない」と6月の初会見と同様に否定しましたが、証拠は示そうともしませんでした。そして、呆れたことに愛媛県文書を「読んでいない」とも述べました。全く説明責任を果たす姿勢をみられませんでした。

今回の会見は、加計学園に説明責任を果たすことなど求めた7月11日の県議会決議を受けて開かれたものです。それなのに、加計氏が県文書を読まないまま会見に臨んだとすれば、何のための改憲なのか、記者団からも「まったく説明責任を果たしていない」との指摘をうけました。

### 学園がわざわざ安倍首相と面会したことを報告に

国会に提出された県作成の文書によると、2月25日に加計氏と安倍首相が面会したことを、学園が県に報告しました。面会で加計氏は今治市で獣医学部新設を目指すことを説明。安倍首相は「新しい

獣医大学の考えはいいね」と述べたとされています。安倍首相は、獣医学部新設を知ったのは2017年1月20日と国会で答弁しており、県文書との食い違いが問題になっていました。

加計氏は、安倍首相との面会について、「記録を調べたが事務局にもないので、(面会)はないのでしょうか」と弁明。県文書に面会とあるのは、渡辺良人学園事務局長の「勇み足」で、「事を前に進めるために誤解を招くようなことを申し上げた」と述べました。

加計氏・学園側は渡辺事務局長が首相と面会したという説明を「ふと思いついた」としています。ただ県文書によると学園は当時、「理事長と安倍首相との面談結果等について報告したい」として県当局に打ち合わせを申請しています。「ふと思いついた」ではなく、最初から首相との面会を報告する予定になっていました。県文書の食い違いについて学園側は、「県文書にわれわれがコメントする立場ではない」と回答を避けました。

再度の会見について学園側は「愛媛県、今治市と相談し、検討する」と述べました。

## 愛媛県知事 「もやもや感は払拭できない」と批判

愛媛県の中村時広知事は9日、「理事長自ら会見に臨んだことは評価し、説明責任は果たされた」とした上で、「もやもや感がまだ残っている。個人的には解消された方がいいかと思う」「学園の責任で引き続き説明責任を果たすべく汗をかき続けなければいけない」と述べました。また、中村知事は「証拠が示せないといつまでももやもや感は払拭できない」とも述べ、「証拠を見つける努力は続けるべきだ」と指摘しました。さらに、県の文書を見ずに会見に臨んだ加計氏の姿勢については「これだけの問題なのだから見ていてしかるべきだ」と批判しました。

## 国民の7~8割が「納得していない」

9月8~9日の朝日新聞の世論調査で、「あなたは、森友学園をめぐる国有地の売却問題や、加計学園の獣医学部新設の問題について、安倍首相のこれまでの説明に納得していますか。納得していませんか」との問いに、「納得している」14%、「納得していない」76%でした。様々な世論調査でも7~8割が「納得していない」と答えています。

野党は臨時国会で徹底して追及してほしいものです。私たちが声を上げ続けましょう。

## 小泉元首相「憲法改正なんか、できるわけない」

安倍首相は党人事と内閣改造で異常な改憲シフトを敷きました。安倍首相は臨時国会に自民党の改憲案を提示する考えを明らかにしました。改憲シフトの一人、萩生田光一自民党幹事長代行は「ボールを蹴って初めてさまざまなフォーメーションが生まれる」とあくまでも前のめりです。安倍氏が狙う、9条に自衛隊を明記するなどの「安倍改憲」の強行が国民に支持されていないことは改造後の世論調査にも示されています。9条改憲の加速は許されません。

このように安倍首相が改憲に突き進む中、小泉純一郎元首相が8日、BS朝日の番組収録で、安倍首相の憲法改正について、「来年にできるわけがない」と正面から批判しました。

小泉氏は、「総理が『原発をゼロにしよう』と言えば、野党も協力できる、国民も支持する。自然エネルギーを活用して日本を発展させる方針を立てるべきなのに、なんで立てないのか。できることをやらない」と「原発ゼロ」の必要性を訴えました。

そして、安倍首相の前のめりになっている改憲について、「憲法改正なんかできるわけない。(安倍首相は)自民党案をまとめて、来年の通常国会に出そうと言う。憲法改正というものは与党、野党が協力してやらなきゃ。憲法改正は選挙の争点にしてはいけない。野党第1党と協力してね。できないことをやろうとしている」と発言しました。

そして、「安倍首相は感度が鈍いのか、判断力が悪いのか」と首をかしげ、「やればできることをやらず、できもしないことをやろうとしている」と皮肉り、「野党が統一候補を出し、原発ゼロの公約を掲げて争点にしたなら自民党は危ない」とも発言しました。

## 自民党 衆院憲法審査会の会長に森英介氏を留任



自民党は9日の総務会で、衆院憲法審査会の会長に森英介氏を留任させることを内定しました。自民党内では、先の国会で衆院憲法審査会が2回計6分しか開催されず、憲法改正論議が進まなかったことに対して、党内の衆院憲法審査会の中心メンバーの差し替えを求める声が出されていました。しかし、森氏が2016年から会長を務めており、これまでの経緯を把握していることなどを重視したものと見られます。

また、衆院の議院運営委胃腸に高市早苗元総務相が内定し、予算委員長には野田聖子前総務相を起用する方向で調整しています。

## 各地のとくくみ

### **兵庫** 憲法活かす要求と結ぶ3千万署名の取り組み 相乗効果で大きな変化

10月6日、毎月恒例の兵庫憲法共同センター神戸市9区交流会議を開き、3千万署名の9・30第四次集約の状況を持ち寄りしました。津川知久代表はまず「この秋“終わりの始まり”を告げる三つの象徴的なできごと」として、①沖縄知事選の大勝利、②内閣改造したのに安倍支持率低下、③右翼的ジャーナリズムへの批判広がる、をあげました。

そして「何が何でも改憲」シフトで臨む安倍首相に対する様々な矛盾を説明しました。その上に国民世論は、10月24日からの臨時国会の動きに対し、「改憲は急ぐべきではないが68%（日経・テレビ東京系）」「憲法はいじらず、生活をなんとかして」「外交の安倍も、日米文書の改ざんで虚飾はがれ」などでまさに“信頼どん底”事態へ。よって、私たちのたたかいは、**1, 訴えるべきポイント**＝①改憲発議阻止、②「自衛隊書くだけ」批判の徹底、③朝鮮半島非核化に逆行する動きへの批判、そして**2, 運動のポイント**＝①憲法生かす立場で諸要求と結合した3千万署名、②すべての団体・地域が幅広い共同実現を実践する中で野党連合政策の合意も展望していこう、と提起しました。

『須磨区のセンター』： 夏場は暑くて運動はやや低下したが今はすべての行動は再開し月2回の市民アクション行動、その上に共同センター、「9条の会」ネット、みなせん等三組織の活動も行っている。改憲だけのうったえでなく25条の年金、消費税などくらしの問題も対話の軸にしている。10月から生活保護切り下げはひどく役所の職員も難しい申請書で処理も出来ないほど困っているのでこんな姿も訴えている。

『長田区のセンター』： チャレンジャーによるポストイン活動を継続している。新長田・鉄人前宣伝行動も3野党系（共産・新社・自由）の皆さんによって常にリリーススピーチが出来るようになり、9月の19行動では15人で活気に溢れた。団体では長田民商が「秋の闘いは消費税と3千万署名だ」と先頭で頑張っている。10月28日の3野党共同主催の“白井聡さん講演”を大きく成功させるため頑張っている。

『兵庫区のセンター』： 今日の提起を受け10月9日代表者会議で方針を強化する。提起のように地域要求との結合はすごい。大変人気がある年間延べ13万人も利用している兵庫駅前の健康ライフプラザを今回閉鎖して「一般の人が使いにくくなる“改革”」にするので区民の怒りはいっぱいです。それで存続を求める署名を幅広く取り組むと1700筆を超え、3千万署名も並行して増加した。いろんな要求との結合「憲法を生かす方向」提起はその通りと思う。

＜憲法改悪ストップ兵庫県共同センター週刊ニュース 10月11日号より＞

### **札幌** 「3000万人署名」と「ヒバクシャ国際署名」を一緒に呼びかける！

北海道地震発生から1ヵ月余の9日、道憲法共同センターが「9の日行動」で安倍9条改憲反対の「3000万人署名」と、道原水協が「ヒバクシャ国際署名」を、札幌市内で一緒に呼びかけました。

風が大変強い日で、「焼き場の少年」や「生きぬいて」の原爆パネルや横断幕が飛ばされそうになる状況でしたが、ビラを配り、両署名への協力を訴えました。

日本共産党の畠山和也前衆院議員や、参加団体の代表がマイクを握り、訴えました。

父親が自衛隊員で「戦争はイヤです」という高校3年生の女子生徒は「周りの友人は、学校で戦争の危険を学んでも他人ごとのようです。平和のためにこういう行動が大事です」と話しました。また、年配の女性は「自民党はきらい」と語り、「安倍政権はおかしい。私一人の力ではどうにもできないから署名します」と署名しました。